

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3171600228		
法人名	社会福祉法人 萌生会		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地 (電話番号)	鳥取県西伯町伯耆町長山171 (電話) 0859-62-0100		
評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル111号		
訪問調査日	平成21年8月27日	評価確定日	平成21年9月25日

## 【情報提供票より】(21年 8月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年9月30日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤	11人 兼務 1人, 常勤換算 11.4 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	380 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 1,380 円			

### (4) 利用者の概要( 8月1日現在)

利用者人数	16 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	0 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低	70 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	伯耆中央病院・篠原歯科医院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>樹木や竹に囲まれ、緑が美しくさわやかな風に包まれた自然を感じられるグループホームで、開設して7年が経過した。敷地内には桜の木や藤棚の下にベンチ、池があり入居者の安らぎの場所となっている。近隣に同法人の伯耆中央病院、特別養護老人ホーム「ことぶき」、介護老人保健施設「寿楽荘」があり、連携体制が利用者者と家族の安心に結びついている。職員は老若男女と理想的な家族構成に例えられる。職員は利用者を支援させていただいているという姿勢を常に持っており、ホームの雰囲気は和やか。利用者は畑仕事や家事の役割や外出の楽しみごとを持ちながら、穏やかな日々を職員と支えあっている。</p>
--

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>① 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「私達は皆様が和やかに輝いて暮らされるよう支えて行く事を目指します」の理念がホーム玄関に掲示しており、「住み慣れた地域の中で和やかに支えあっていきましょう」のフレーズがホームのパンフレットに謳われている。地域密着型サービスとしての社会的役割を職員で再確認し、職員の思いを理念に反映することを検討されたい。</p>
	<p>② 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価について、職員全員で取り組み、項目ごとの記入も分担することで、より深く意識づけをしており、積極的な取り組みがうかがえる。外部評価の結果については、ミーティングや運営推進会議で報告・話し合いが行われ、具体的な改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>③ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回定期的に開催されており、利用者の報告、ケアや取り組みに関する相談、意見交換等行われている。参加者は民生委員、家族代表者、町の担当者(総合福祉課)南部箕蚊屋広域連合の職員及び、ホーム職員、法人管理者で形成され、有意義な連絡協議会となっている。</p>
重点項目	<p>④ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族のリクエストや要望について柔軟に取り入れており、体操や童謡のBGM、花回廊へのドライブ、等実現している。苦情関してはすみやかに対処しており、職員間で周知及び改善が行われている。年に1回家族会が開催され、職員との対話の機会としている。</p>
重点項目	<p>⑤ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設以来、時間をかけて地域との関係作りに努めてきた。散歩時に挨拶を交わす等、さわやかなことを大切にしていき、老人会との交流をはじめ、ボランティアの受け入れ、地域の踊りの会、大正琴の会とのつながりも築いてきた。障害者がホームに訪問販売するパンを購入したり、園児がホームの庭に遊びに来るなどの日常もある。「障害老人を支える家族の会」において職員の体験を話す等地域に向けて貢献する取り組みをしている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「私達は皆様が和やかに共に輝いて暮らされるよう支えて行く事を目指します」の理念に加えて、ホームのパンフレットに「住み慣れた地域のなかで和やかに支えあって暮らしましょう」と謳ったフレーズがある。		地域密着型サービスとしてのホームのあり方を職員全員で再確認をし、改めて理念に映し出してはどうでしょうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員ミーティングにおいて、理念に照らして最近のケアの振り返りを行っている。職員は理念に近づけるよう日々努力を重ねている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に挨拶を交わす等を大切にしてゆき、老人会との交流をはじめ、ボランティアの受け入れ、地域の踊りの会、大正琴の会とのつながりもある。障害者がホームに訪問販売するパンを購入したり、園児がホームの庭に遊びに来るなど日常的な関わりがある。「障害老人を支える家族の会」において職員の体験を話す等地域に向けて貢献する取り組みをしている。		地域の周知、理解が得られるよう、月日をかけて努力を重ねている。今後も地域密着型サービスとして特色を活かしながら、引続き取り組みをつづけていただきたい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価について、全員で取り組み、項目ごとの記入も分担することでより深く意識づけをしている。外部評価の結果については、ミーティングや運営推進会議で報告・話し合い、具体的な改善に向けて取り組んでいる。		評価を重ねるごとに毎年改善されているとの実感があり、励みとされている。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催されており、報告、意見交換等行われている。参加者は民生委員、家族代表者、町の担当者(総合福祉課)南部箕蚊屋広域連合の職員及び、ホーム職員、法人管理者で形成され、有意義な連絡協議会となっている。		利用者の報告にとどまらず今後も困難事例やケアの悩みなどホーム内の事柄を発信し、よりオープンなホーム作りが期待される。会議録について前回の討議内容を受けての結果・報告の記録の整備をされたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南部箕蚊屋広域連合より月1～2回介護相談員の訪問があり、入居者と話をされている。利用者は自然体でサービスの話し等をされている。この結果の報告書があり、職員が閲覧しサービスに活かすことに取り組んでいる。		管理者、リーダーは報告書をファイル簿に整備され、職員全員が閲覧しサービスに取りくんでおられるが職員全員が閲覧したかどうか確認ができていない場合もある。全員閲覧の確認方法を検討されサービスの向上に活かされたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の請求書に添えて、なごみ便りにて利用者の様子を報告している。家族の訪問時には日々の様子、身体状況、職員異動等を伝えるとともに、変化のあった場合は個々に連絡をしている。年1回家族会を開催している。職員の異動はなごみ便りに写真と共に紹介されている。入居者には最初の勤務時に紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族のリクエストや要望について柔軟に取り入れており、体操や童謡のBGM、花回廊へのドライブ等実現している。苦情関してはすみやかに対応しており、職員間で周知されている。		年末に家族会が開催され報告もなされるが、ケースによっては文書の配布・掲示などでその時々報告がなされることが望ましい。職員主導の家族会では、忌憚の無い意見のなかなかもらえないとのことなので家族の自主的な意見交換会を検討し意見・要望の抽出に努めたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本人の適性やケアの向上のため、法人内で異動はあるが、利用者とその家族に理解が得られるよう説明・紹介をしている。職員の異動はなごみ便りに写真と共に紹介されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要な勉強会をホーム内で行っている。法人内の研修・他G.H.との相互研修をはじめ研修計画に基づき、職員の研修を実施している。研修後の伝達講習も行われている。		特に相互研修は新人に参加を促し、新しい視点、介護技術の吸収をさせている。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	G.H.協会の総会や相互研修を通して同業者とのネットワークを作っている。他事業所とホーム便りを交換している。		他事業所との相互訪問につながるよう、関係を大切にしている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスより移行した利用者については、デイの職員が付き添う。在宅の利用者には見学を勧めたり、管理者が事前に訪問をし、面談を行うなど、穏やかな住み替えのための工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入所者の方より、ちまきのまきかたなど教えてもらい楽しみと一緒に作ったり、家族より歌を聞かせてほしい希望がある入所者は家族よりテープを持参してもらい一緒に歌ったりしている。わからない歌は教えてもらうなど支えあう関係作りが行われている。重度の利用者についても職員が学び、ケアをさせていただいているという姿勢を持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回入所時は計画担当者がアセスメントを行い、利用者と家族の思いに沿ったプラン作りを心がけている。その後共に暮らす中で本人の希望を聞いたり、言葉にできない思いを汲み取ったりしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がリラックスできるよう利用者の居室において話し合いが行われる。介護計画原案をケアマネ、担当職員で作成しサービス担当者会議を開催し家族、本人の意向、希望を取り入れた介護計画書が作成されていた。会議に出席できない家族には事前に希望、意向を聞き入れ計画書が作成されている。主治医の意見も取り入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	プランの見直しについては入院があってもリハビリで入院前と変化なし、短期入院で変化なしのためプラン継続であった。更新時のプランも作成されていた。モニタリングは1ヶ月1回行われていることが確認できた。		速やかな計画の見直しにつながるよう、機能的なシステム、記録の整備を検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	歯科、眼科などは法人内の病院で受診、家族が付き添いできない場合は職員が付き添う。墓参りや地域の自分の畑に行きたい等希望の付き添いは利用者と日程を相談して職員が付き添いを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所者全員が法人の病院をかかりつけ医に希望され往診、受診が行われている。夜間の急変時は法人の病院Drの指示や特養、老健の看護師、ホームの管理者と連携を取り適切な医療の支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の希望があれば可能な限り対応する。重度化や終末期の対応について必要時入居者、家族に病院Dr、管理者、ケアマネが説明を行う。病院Dr、管理者、ケアマネ、担当職員は重度化や終末期の話し合いをしている。医療が必要な状態の場合は病院Drが家族に説明される。職員はを会議等で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	丁寧な話しかけや傾聴で対応をされていた。記録等の情報は鍵のかかった書庫や書庫のガラス面にはプライバシー保護のため紙を張り中が見えない工夫がされていた。排泄介助時は使用時タオルで隠しドアを閉めて、プライバシーの保護をされていた。男性職員が排泄、入浴介助のときは事前に説明し納得されプライバシーの保護に基づきケアが行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の暮らしのペースは決まっているが声かけを多く行い関わりを持ちできることを把握し希望の支援を受けながらすごされていた。業務優先を感じさせる介助は見られず、ゆったりとした支援がなされていた。利用者に関わる中で、その日をどのように過ごしたいか言葉に出来ない部分を感じ取ることを大切にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作成は法人の施設で準備し、配膳・下膳を利用者と共に行う支援をしている。日曜日には、ホームで味噌汁を調理をする、菜園で収穫した野菜で一品増やす、手作りのおやつ作りなど利用者の力を活かす工夫もある。麦飯の対応など、個々の好みにも対応している。		全ての職員が利用者と同じメニュー、同じテーブルにつき談笑しながら食事を楽しむ支援をしている。スムーズに食事の取れない利用者に対してもこまめな声かけ及び介助を行っている。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に週に3回入浴支援を行っている。曜日は決まっているが、希望があれば職員のシフトで対応できる。個室とチェアインバス室があり入居者の希望や状態にあわせて入浴が行われていた。夜間の入浴も過去にあり、希望があれば対応可能である。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月に1回食事作りをされる。季節でホームの畑で取れた野菜を食事の1品として食べてもらい季節感、収穫の満足感を味わってもらっている。花の水やり、鯉の餌やり、畑仕事、食事の準備と片付け、洗濯物たたみなど数々の役割作りを支援している。また、敷地内の水車の側、藤棚の下でのランチ、おやつレクリエーションな		さらに利用者の生活歴を把握し、支援につなげる意向を持っている。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の散歩に出かけ地域の方から声かけがあり、挨拶ができホームの中だけでなく外の刺激を受けることができる。地域のスーパーに買い物や近隣の花回廊には行きたい希望があればでかけ花や施設内を観賞でき外出が楽しみごとにもなっている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関、正門共に鍵はかけていない。居室の施錠は行われていない。ホームの近くには踏み切りがある。離設が起こらないよう正門は18時シャッターが閉められる。家族の面会はシャッター横にインターホンで職員と対応開錠され面会ができる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施。夜間を想定した訓練も行われている。緊急時には併設の特別養護老人ホームことぶきと連携体制がある他、民生委員の協力も得ている。また同法人施設に緊急時の備蓄(食品、水など)を管理している。		隣接が山であり土砂災害も想定される。役場がマニュアル作成中。今後役場のマニュアルと施設のマニュアルで対応していく。土砂災害などの非常時の判断基準について役場にはたらきかけている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士によりバランスの良い食事が提供されている。きざみ食、とろみ食などの食事形態、またカリウムなど特別な注意を必要とする食事について個別に対応している。食事及び水分摂取量も記録により管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に利用者作成の飾りなど多くあり楽しむことができる。トイレは廊下の角にあり使いやすい場所である。不快な臭いは感じられなかった。中庭に鯉が飼ってあり人が通るとよってくるなど在宅での生活感が伺えた。中庭に藤棚があり季節には弁当を食べ花見が行われる。桜の大木もあり同様に花見ができる。ホームの周囲は緑に囲まれ池もあり穏やかに暮らせる工夫がされていた。		訪問日廊下の角に洋服ダンスが置いてあり地震など災害時に転倒の危険を感じた、対応をされたい。洋服ダンスのすぐ横には花台が置いてあり角で怪我をされる危険性を感じた。用途に合った置き場所を工夫されたい。危険予知の意味で、足元等の環境整備など、今一度職員で点検を行ってはどうかであろう。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたものや思い出の品物が置かれて居こごちよく過ごせる工夫がされていた。ベッドで危険が予想される入居者には家族と相談されながら畳対応の居室があり配慮されていた。		